

**凸版印刷、レンジ調理後そのまま食べられる新型包材を開発**

レンジ調理後、開封してそのまま食器として使用できる

冷凍食品向け新型包材「いただきピロー®」を開発。

プラスチックトレイ入りの製品と比較してプラスチック使用量約 76%削減

凸版印刷株式会社(本社:東京都文京区、代表取締役社長:磨 秀晴、以下 凸版印刷)は、価値あるパッケージ」で、よりよい社会と心豊かで快適な生活に貢献する「TOPPAN S-VALUE® Packaging」を掲げ、「ちきゅう」に価値ある「サステナブル バリュー パッケージ®」を提供しています。

このたび凸版印刷は、「サステナブル バリュー パッケージ®」のラインアップの一つとして、新型包材「いただきピロー®」を開発しました。本商品は、レンジ調理時の自動通蒸が可能で、開封後にそのまま食器として使用することができる、巻取りで納めるタイプのパッケージです。また、従来のプラスチックトレイ入りの製品と比較して、プラスチック使用量を約 76%削減※1。また、外袋と内袋からなる軟包装パッケージ製品と比較してプラスチック使用量を約 35%削減※2 でき、包材製造時の CO<sub>2</sub> 排出量を約 20%削減※3 できます。冷凍パスタや冷凍チャーハンなどの冷凍総菜向けに、2022 年 4 月よりサンプル出荷を開始します。



「いただきピロー®」サンプル ©TOPPAN INC.

**■ 開発の背景**

持続可能な社会の実現に向けて、世界的にプラスチックごみ対策や地球温暖化対策が活発になる中、環境負荷を低減するパッケージにも注目が集まっています。凸版印刷はこれらの課題に対し、石化原料由来のプラスチックの使用量減と CO<sub>2</sub> 排出量の削減を目的としたパッケージの開発を推進しています。また、コロナ禍を背景にした在宅時間の増加にともない、食に関する時間の短縮や手間の削減など「食の簡便化」のニーズが高まっています。そのような「即食ニーズ」に応える代表的な容器には「トレイ」と「パウチ」がありますが、「トレイ」は食べやすいが廃棄時にかさばる、「パウチ」は廃棄しやすいが食器への移し替えが面倒、という課題がありました。こうした市場背景を受け、凸版印刷は 2019 年 8 月より、加工食品の包装に使用されていたプラスチックトレイを使用しなくても、そのまま食べることができる新型レトルトパ

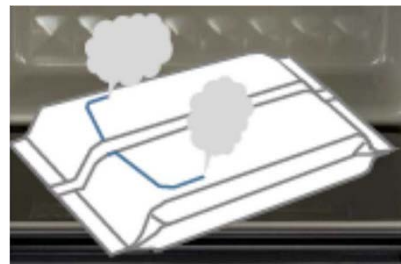
ウチ「いただきパウチ®」を開発、販売しています。

このたび開発した新型包材「いただきピロー®」は、既存の巻取り包材用充填機が使用可能なため、レトルト食品だけでなく、冷凍食品やチルド食品においてもプラスチックトレーを使用しない食品包装の対応が可能となりました。

## ■ 「いただきピロー®」の特長

### ・特殊なレーザー加工で広口開口を実現、そのまま廃棄可能な即食容器

包材表面に自由にレーザー加工を付与する新技術により、蒸気抜き機能とともに、レンジ加熱後に広口での開口が可能に。食器に移し替えることなく、そのまま食べることもできます。また食後は洗い物の必要なく簡単に廃棄できます。



「いただきピロー®」の使用イメージ ©TOPPAN INC.

### ・充填設備の改造は不要

巻取り包材に特殊なレーザー加工を施しているため、食品メーカーで大きな設備改造は不要、従来使用されている巻取り包材用充填機での生産が可能です。

### ・環境負荷の低減に貢献

プラスチックトレーを使用した製品から「いただきピロー®」に置き換えることにより、プラスチックの使用量を約 76%削減※1 が可能です。また、外袋と内袋からなる軟包装パッケージ製品から「いただきピロー®」に置き換えることにより、プラスチックの使用量を約 35%削減※2、包材製造時の CO<sub>2</sub> 排出量を約 20%削減※3 が可能です。



①そのままレンジで調理可能



②蒸気抜き機能付き



③広口での開口が可能



④そのまま食事が可能

「いただきピロー®」の使用イメージ ©TOPPAN INC.

「レンジ対応パッケージ」紹介 URL

[https://www.toppan.co.jp/living-industry/packaging/products/microwavable\\_package/index.html](https://www.toppan.co.jp/living-industry/packaging/products/microwavable_package/index.html)

## ■ 「TOPPAN S-VALUE® Packaging」について



凸版印刷は、「価値あるパッケージ」で、よりよい社会と心豊かで快適な生活に貢献する「TOPPAN S-VALUE® Packaging」を掲げ、「ひと」に価値ある「スマートライフ バリュー パッケージ®」、「しゃかい」に価値ある「ソーシャル バリュー パッケージ®」、「ちきゅう」に価値ある「サステナブル バリュー パッケージ®」を提供します。



「ひと」/「スマートライフ バリュー パッケージ®」

円滑な購入や効率的な保管、美味しく仕上がる調理、簡便な廃棄、安全・安心な取扱いなど、生活のさまざまな場面に最適な価値を提供し、コミュニケーション媒体として顧客体験を最大化させるソリューションを展開します。



「しゃかい」/「ソーシャル バリュー パッケージ®」

サプライチェーンにおいて発生する業務効率化、生産性向上、販売の最適化などのさまざまな課題を解決し、継続的な企業活動を実現する価値あるパッケージやサービスを展開します。



「ちきゅう」/「サステナブル バリュー パッケージ®」

再生プラスチックを用いた包装材、単一素材でリサイクル適性を向上した包装材、植物由来材料の紙やバイオマスプラスチックを用いた包装材など、環境負荷の低減と循環型社会の実現につながるソリューションを展開します。

<URL>

<https://www.toppan.co.jp/living-industry/packaging/sustainability/>

## ■ 今後の展開

凸版印刷は、2022年4月27日(水)から食品分野に向けて「いただきピロー®」のサンプル出荷を開始、2023年度に関連受注を含めて5億円の売上げを目指します。また、これからも消費者の暮らしの変化に寄り添った、より利便性の高い食品包材の開発を進めるとともに、環境に配慮したパッケージを展開し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

※1・・・当社調べ。プラスチックトレイ/フィルム製フタ/フィルム製外袋から成る包材との比較。

※2・・・当社調べ。フィルム製外袋/フィルム製内袋から成る包材との比較。

※3・・・当社算定。フィルム製外袋/フィルム製内袋から成る包材との比較。CO2 排出量の算定範囲はパッケージに関わる①原料の調達・製造、②製造、③輸送、④リサイクル・廃棄。

\* 本ニュースリリースに記載された商品・サービス名は各社の商標または登録商標です。

\* 本ニュースリリースに記載された内容は発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。

以上